

F 高齡障がい者調査

I 調査結果

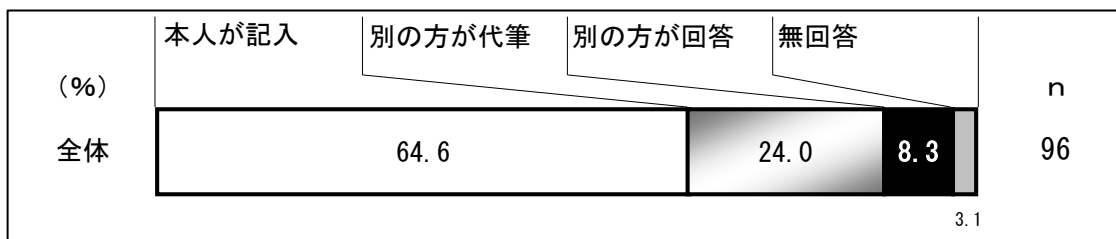
1 回答者について

(1) 回答者と対象者の同一性

問1 回答するのは誰ですか。

回答者は、「本人が記入」が64.6%、「別の方が代筆」が24.0%、「別の方が回答」が8.3%となっている。

図表 F1-1-1 回答者と対象者の同一性（全体）



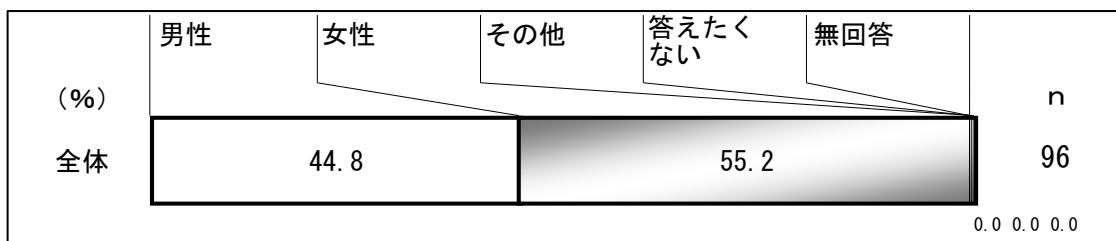
2 対象者について

(1) 対象者の性別

問2 性別をご回答ください。

対象者の性別は、「女性」が55.2%、「男性」が44.8%となっている。

図表 F2-1-1 対象者の性別（全体）



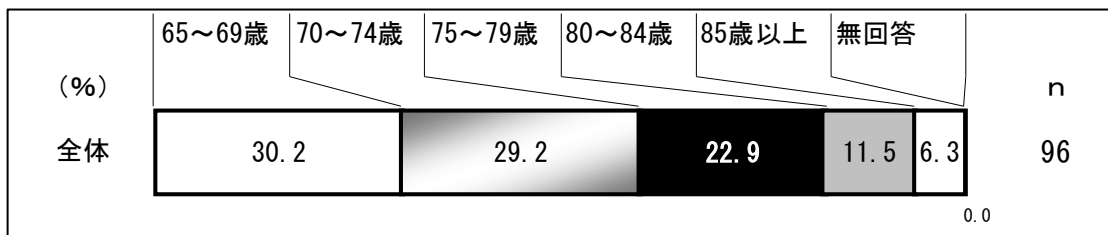
F 高齢障がい者調査

(2) 対象者の年齢

問3 年齢をご回答ください。

対象者の年齢は、「65～69歳」が30.2%、「70～74歳」が29.2%、「75～79歳」が22.9%、「80～84歳」が11.5%、「85歳以上」が6.3%となっている。

図表 F2-2-1 対象者の年齢（全体）

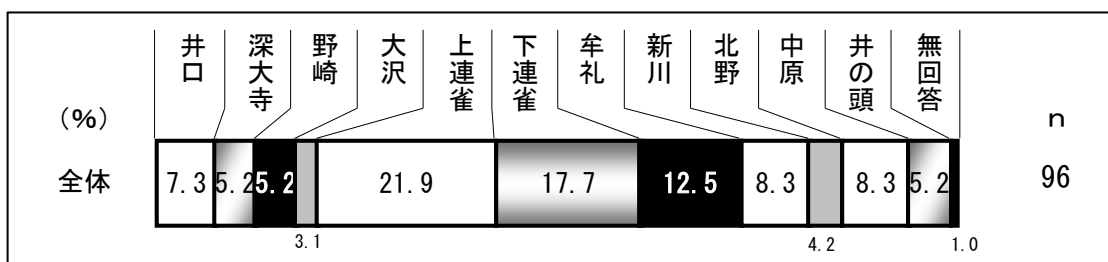


(3) 居住地区

問4 現在住んでいる地域はどこですか。

居住地区は、「上連雀」が21.9%、「下連雀」が17.7%、「牟礼」が12.5%、「新川」・「中原」が同率で8.3%、「井口」が7.3%、「深大寺」・「野崎」・「井の頭」が同率で5.2%、「北野」が4.2%、「大沢」が3.1%となっている。

図表 F2-3-1 居住地区（全体）

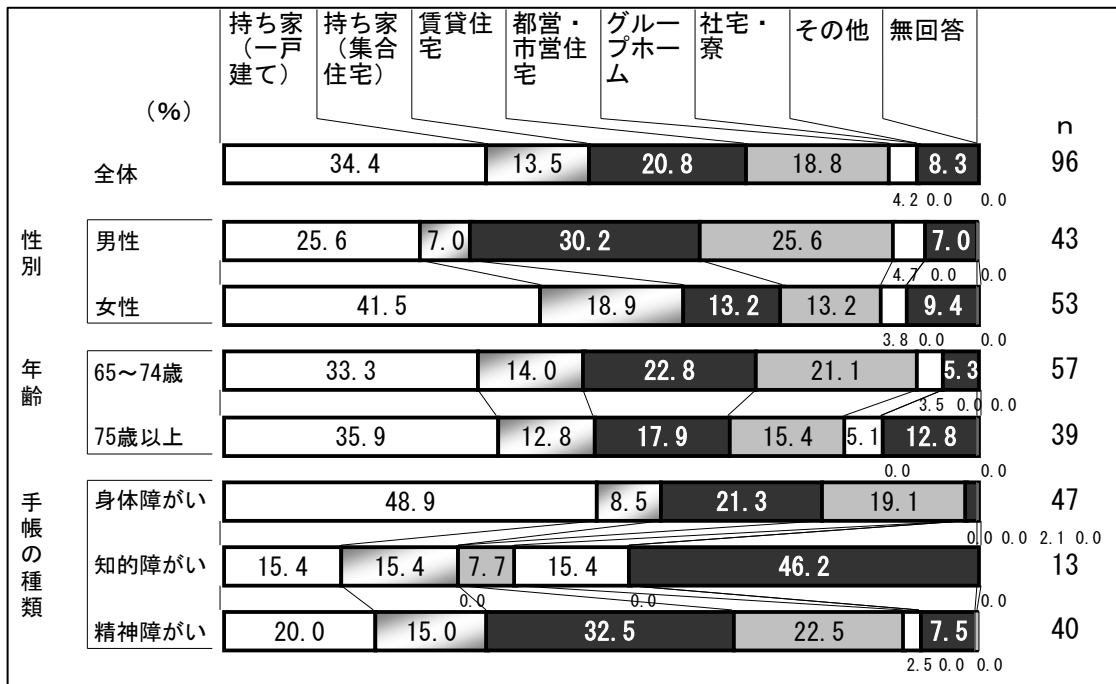


(4) 住居の形態

問5 現在の住居はどれですか。

住居の形態は、「持ち家（一戸建て）」が34.4%、「賃貸住宅」が20.8%、「都営・市営住宅」が18.8%、「持ち家（集合住宅）」が13.5%、「グループホーム」が4.2%となっている。

図表 F2-4-1 住居の形態（全体・性別・年齢・手帳の種類）



図表 F2-4-2 住居の形態（全体・性別・年齢・手帳の種類）

(単位：上段：人、下段：%)

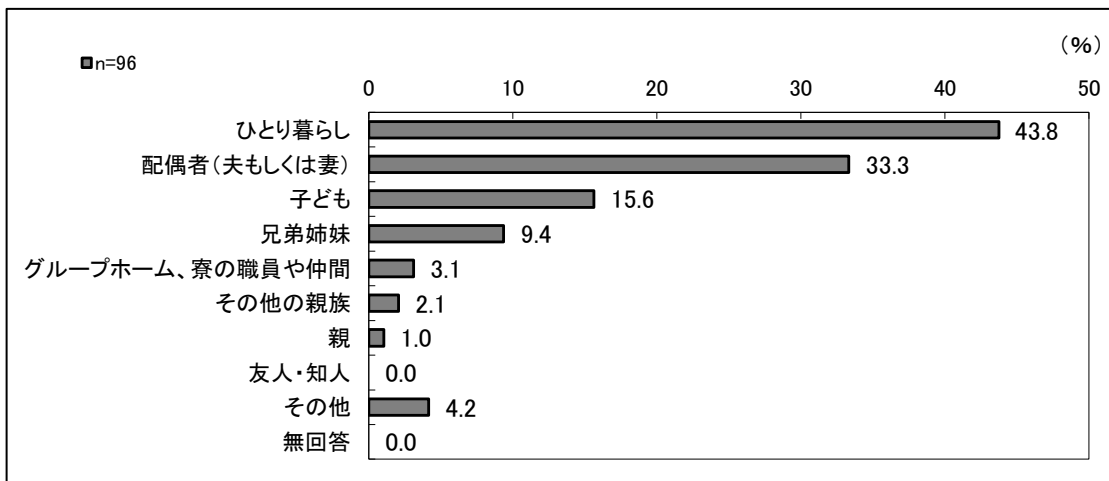
	合計	問5 住居の形態								
		持ち家 (一戸建て)	持ち家 (集合住宅)	賃貸住宅	都営・市営住宅	グループホーム	社宅・寮	その他	無回答	
全体	96	33	13	20	18	4	0	8	0	
	100.0	34.4	13.5	20.8	18.8	4.2	0.0	8.3	0.0	
性別	男性	43	11	3	13	11	2	0	3	0
	100.0	25.6	7.0	30.2	25.6	4.7	0.0	7.0	0.0	
女性	53	22	10	7	7	2	0	5	0	
	100.0	41.5	18.9	13.2	13.2	3.8	0.0	9.4	0.0	
年齢	65~74歳	57	19	8	13	12	2	0	3	0
	100.0	33.3	14.0	22.8	21.1	3.5	0.0	5.3	0.0	
75歳以上	39	14	5	7	6	2	0	5	0	
	100.0	35.9	12.8	17.9	15.4	5.1	0.0	12.8	0.0	
手帳の種類	身体障がい	47	23	4	10	9	0	0	1	0
	100.0	48.9	8.5	21.3	19.1	0.0	0.0	2.1	0.0	
	知的障がい	13	2	2	0	1	2	0	6	0
100.0	15.4	15.4	0.0	7.7	15.4	0.0	46.2	0.0		
精神障がい	40	8	6	13	9	1	0	3	0	
100.0	20.0	15.0	32.5	22.5	2.5	0.0	7.5	0.0		

(5) 一緒に暮らしている人

問6 一緒に暮らしているのは誰ですか。

一緒に暮らしている人は、「ひとり暮らし」が43.8%と最も回答が多く、「配偶者（夫もしくは妻）」が33.3%、「子ども」が15.6%と続く。

図表 F2-5-1 一緒に暮らしている人（全体／複数回答）

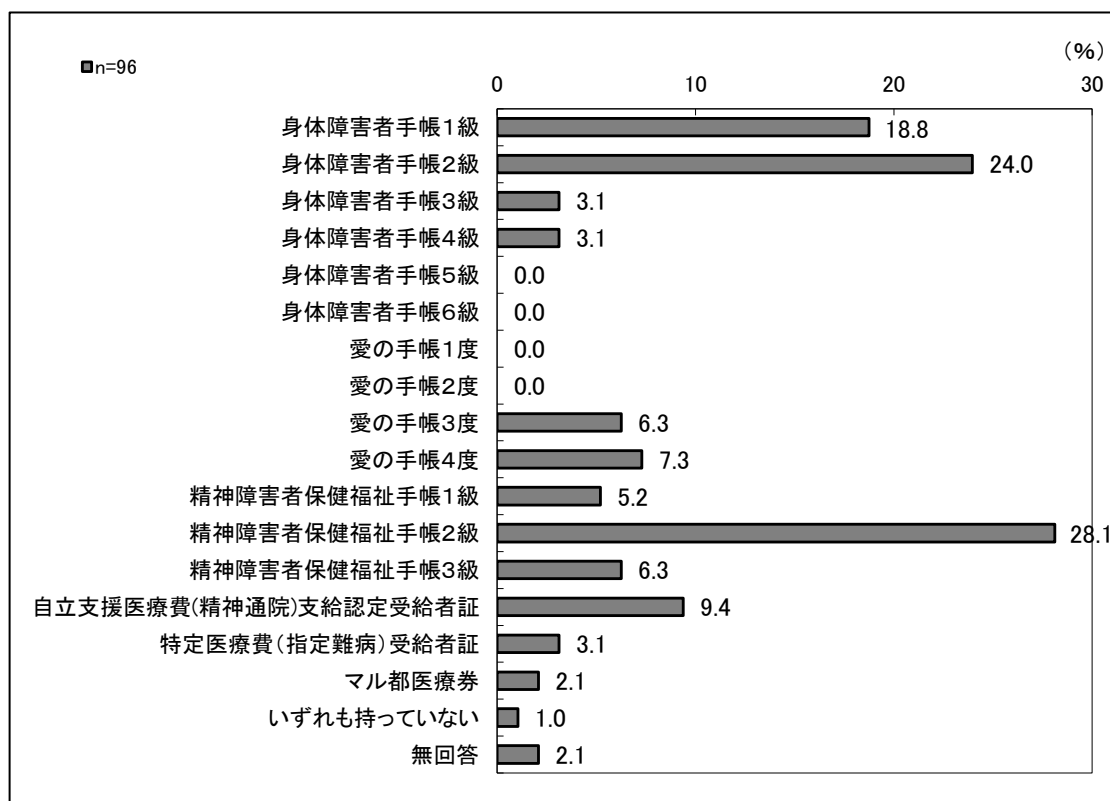


(6) 所持している障害者手帳等

問7 お持ちの手帳等は、どれですか。

所持している障害者手帳等は、「精神障害者保健福祉手帳2級」が28.1%と最も回答が多く、「身体障害者手帳2級」が24.0%、「身体障害者手帳1級」が18.8%と続く。また、「いずれも持っていない」は1.0%となっている。

図表 F2-6-1 所持している障害者手帳等（全体／複数回答）



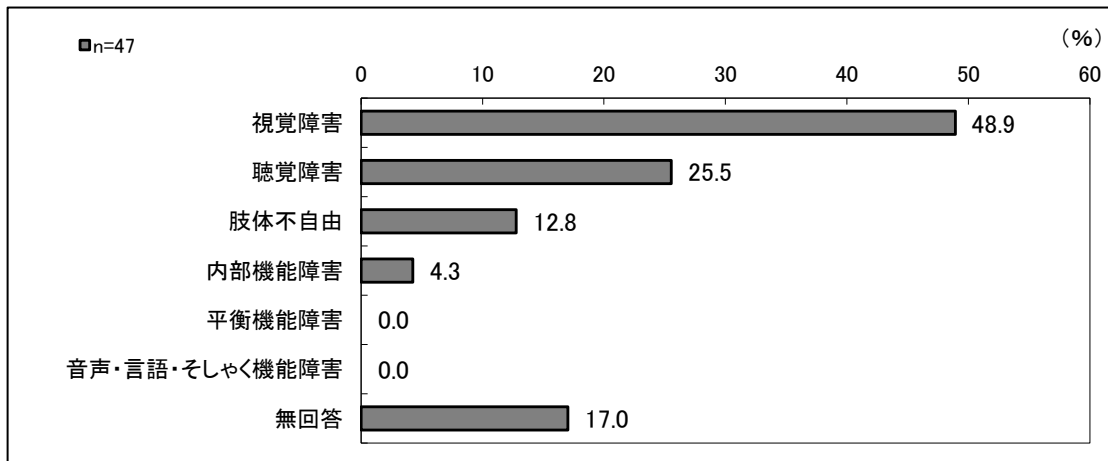
F 高齢障がい者調査

(7) 障がいの部位

※問7で「身体障害者手帳」を所持していると回答した方にお聞きします。
問7-1 手帳に記載されている障がいは何ですか。【複数回答】

障がいの部位は、「視覚障害」が48.9%と最も回答が多く、「聴覚障害」が25.5%、「肢体不自由」が12.8%と続く。

図表 F2-7-1 障がいの部位（全体／複数回答）

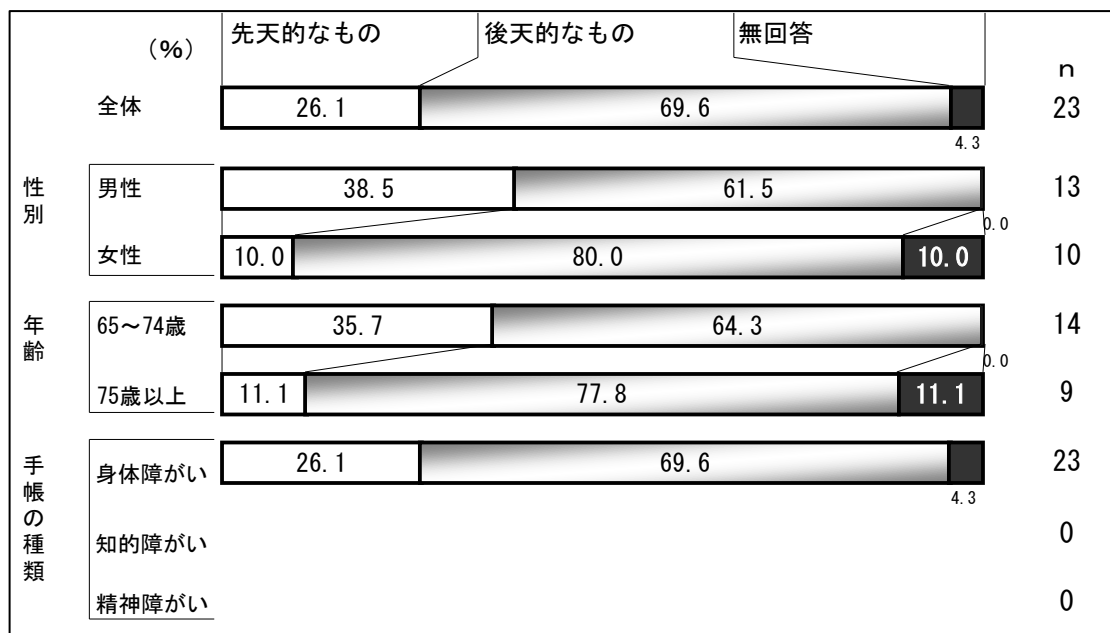


(8) 視覚障害：先天性か後天性か

※問 7-1 で「視覚障害」と回答した方にお聞きします。
問 7-1-1 視覚障害は先天性なものですか。後天的なものですか。

視覚障害が先天性か後天性かは、「後天的なもの」が 69.6%、「先天性なもの」が 26.1% となっている。

図表 F2-8-1 視覚障害：先天性か後天性か（全体・性別・年齢・手帳の種類）



F 高齢障がい者調査

(9) 聴覚障害：先天性か後天性か

※問 7-1 で「聴覚障害」と回答した方にお聞きします。
 問 7-1-2 聴覚障害は先天性なものですか。後天的なものですか。

聴覚障害が先天性か後天性かは、「後天的なもの」が 58.3%、「先天性なもの」が 25.0% となっている。

図表 F2-9-1 聴覚障害：先天性か後天性か（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		(%)	先天性なもの	後天的なもの	無回答	n
	全体		25.0	58.3	16.7	12
性別	男性		25.0	75.0	0.0	4
	女性		25.0	50.0	25.0	8
年齢	65～74歳		0.0	75.0	25.0	4
	75歳以上		37.5	50.0	12.5	8
手帳の種類	身体障がい		25.0	58.3	16.7	12
	知的障がい					0
	精神障がい					0

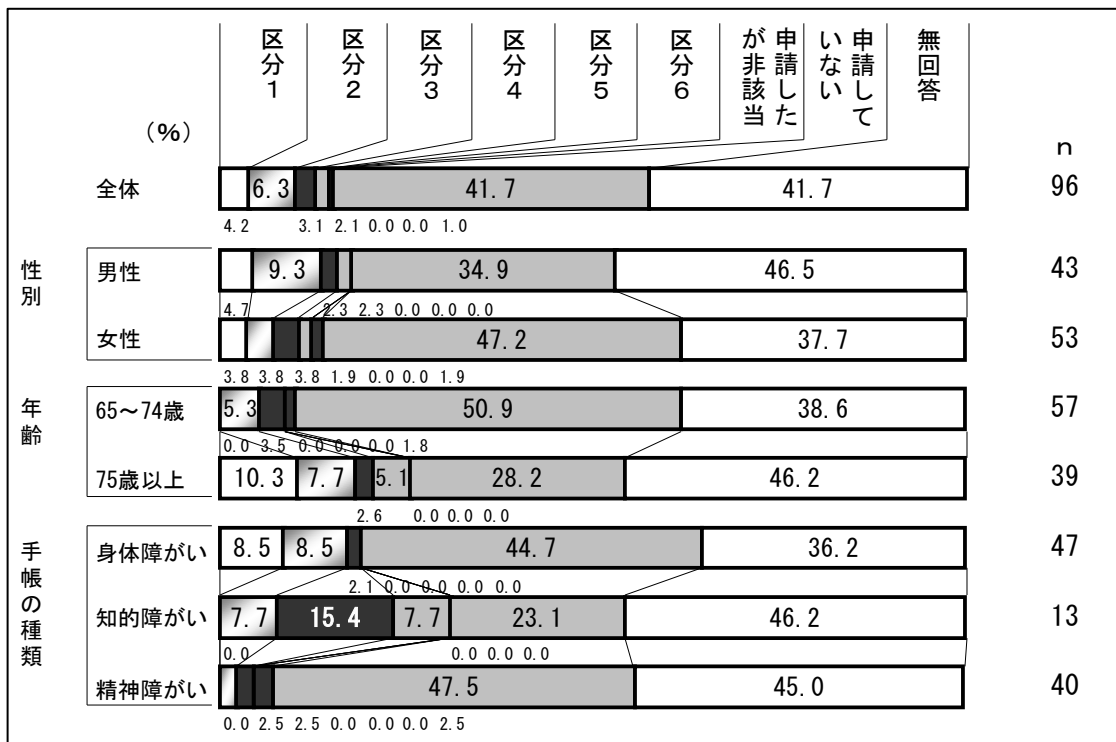
(10) 障害支援区分

問8 障害支援区分の認定を受けていますか。

- 「申請していない」が41.7%と最も多い。

障害支援区分は、「区分2」が6.3%、「区分1」が4.2%、「区分3」が3.1%、「区分4」が2.1%、「申請したが非該当」が1.0%、「区分5」・「区分6」が回答なしとなっている。「申請していない」が41.7%となっている。

図表 F2-10-1 障害支援区分（全体・性別・年齢・手帳の種類）



F 高齢障がい者調査

図表 F2-10-2 障害支援区分（全体・性別・年齢・手帳の種類）

（単位：上段：人、下段：％）

	合計	問8 障害支援区分									
		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	申請した が非該当	申請して いない	無回答	
全体	96 100.0	4 4.2	6 6.3	3 3.1	2 2.1	0 0.0	0 0.0	1 1.0	40 41.7	40 41.7	
性別	男性	43 100.0	2 4.7	4 9.3	1 2.3	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 34.9	20 46.5
	女性	53 100.0	2 3.8	2 3.8	2 3.8	1 1.9	0 0.0	0 0.0	1 1.9	25 47.2	20 37.7
年齢	65～74歳	57 100.0	0 0.0	3 5.3	2 3.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.8	29 50.9	22 38.6
	75歳以上	39 100.0	4 10.3	3 7.7	1 2.6	2 5.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 28.2	18 46.2
手帳の種類	身体障がい	47 100.0	4 8.5	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 44.7	17 36.2
	知的障がい	13 100.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 23.1	6 46.2
	精神障がい	40 100.0	0 0.0	1 2.5	1 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.5	19 47.5	18 45.0

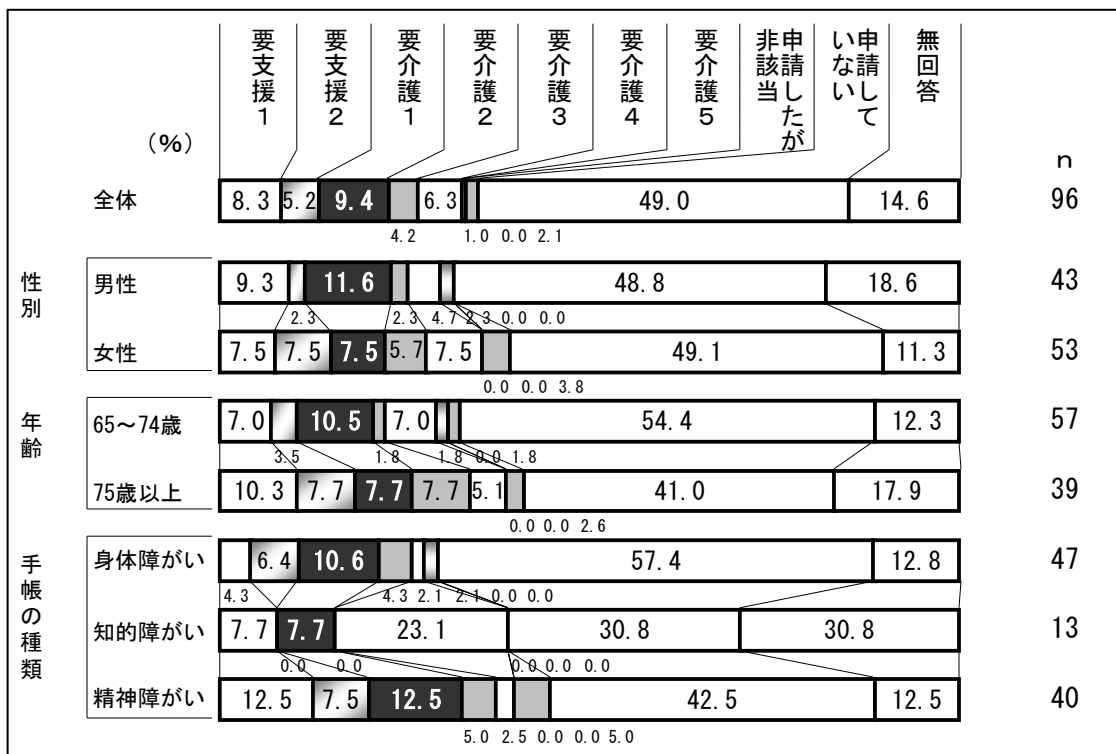
(11) 要支援・要介護認定

問9 介護保険の要支援・要介護認定を受けていますか。

- 「申請していない」が49.0%と最も多い。

要支援・要介護認定は、「要介護1」が9.4%、「要支援1」が8.3%、「要介護3」が6.3%、「要支援2」が5.2%、「要介護2」が4.2%、「申請したが非該当」が2.1%、「要介護4」が1.0%、「要介護5」が回答なしとなっている。「申請していない」が49.0%となっている。

図表 F2-11-1 要支援・要介護認定（全体・性別・年齢・手帳の種類）



F 高齢障がい者調査

図表 F2-11-2 要支援・要介護認定（全体・性別・年齢・手帳の種類）

（単位：上段：人、下段：％）

		合計	問9 要支援・要介護認定									無回答
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請したが非該当	申請していない	
全体		96 100.0	8 8.3	5 5.2	9 9.4	4 4.2	6 6.3	1 1.0	0 0.0	2 2.1	47 49.0	14 14.6
性別	男性	43 100.0	4 9.3	1 2.3	5 11.6	1 2.3	2 4.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	21 48.8	8 18.6
	女性	53 100.0	4 7.5	4 7.5	4 7.5	3 5.7	4 7.5	0 0.0	0 0.0	2 3.8	26 49.1	6 11.3
年齢	65～74歳	57 100.0	4 7.0	2 3.5	6 10.5	1 1.8	4 7.0	1 1.8	0 0.0	1 1.8	31 54.4	7 12.3
	75歳以上	39 100.0	4 10.3	3 7.7	3 7.7	3 7.7	2 5.1	0 0.0	0 0.0	1 2.6	16 41.0	7 17.9
手帳の種類	身体障がい	47 100.0	2 4.3	3 6.4	5 10.6	2 4.3	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	27 57.4	6 12.8
	知的障がい	13 100.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0	3 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 30.8	4 30.8
	精神障がい	40 100.0	5 12.5	3 7.5	5 12.5	2 5.0	1 2.5	0 0.0	0 0.0	2 5.0	17 42.5	5 12.5

3 福祉サービスなどについて

(1) 65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用していたか

問 10 65歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用していましたか。

- 65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用していたかについては、「利用していない」が47.9%、「利用していた」が33.3%、「わからない」が12.5%となっている。

手帳の種類で見ると、知的障がいでは「利用していた」が61.5%と、他と比べて高い割合を占めている。

図表 F3-1-1 65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用していたか
(全体・性別・年齢・手帳の種類)

		(%)	利用していた	利用していない	わからない	無回答	n
性別	全体		33.3	47.9	12.5	6.3	96
	男性		37.2	44.2	16.3	2.3	43
	女性		30.2	50.9	9.4	9.4	53
年齢	65～74歳		28.1	56.1	10.5	5.3	57
	75歳以上		41.0	35.9	15.4	7.7	39
手帳の種類	身体障がい		38.3	51.1	6.4	4.3	47
	知的障がい		61.5	23.1	7.7	7.7	13
	精神障がい		25.0	50.0	17.5	7.5	40

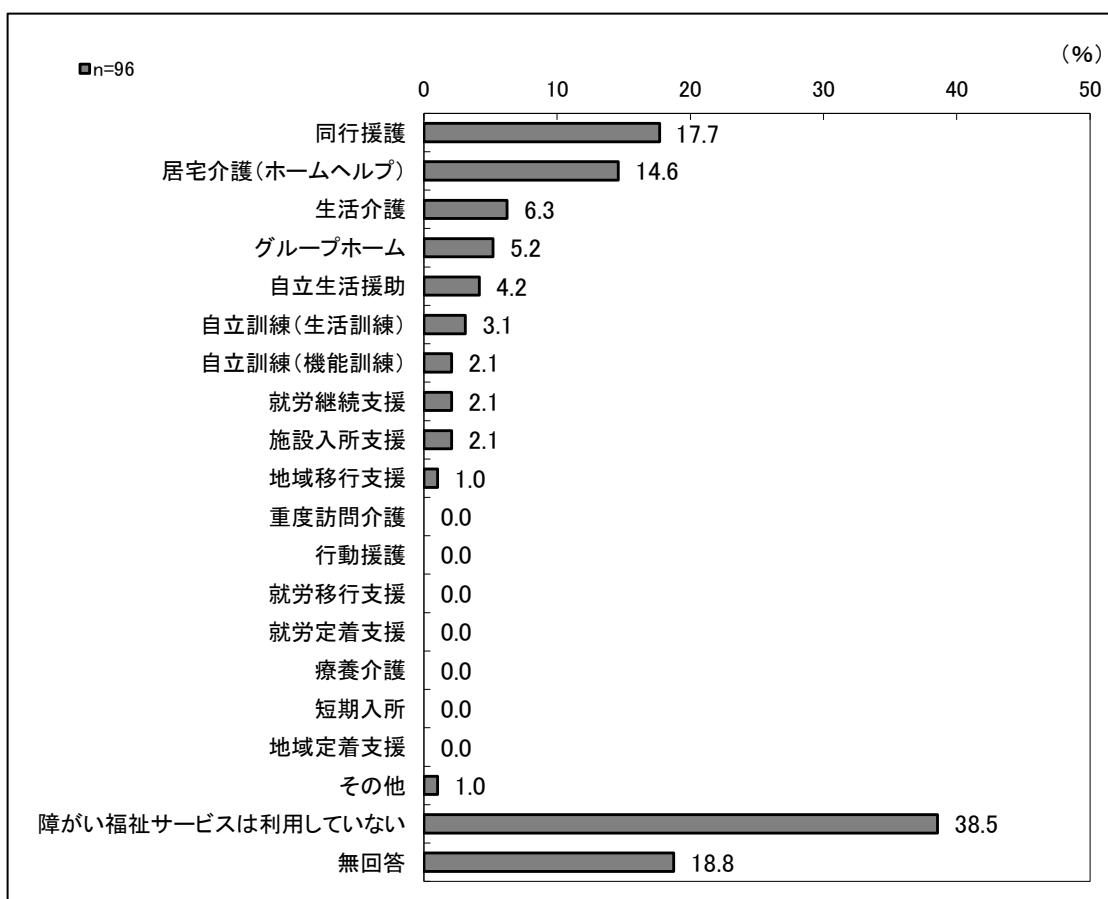
(2) 現在利用している障がい福祉サービス

問 11 現在、利用している障がい福祉サービスは何ですか。【複数回答】

- 現在利用している障がい福祉サービスで最も多いのは「同行援護」で 17.7%。全体では「障がい福祉サービスは利用していない」は 38.5%を占める。

「障がい福祉サービスは利用していない」以外の回答について年齢で見ると、65～74 歳では「同行援護」、75 歳以上では「居宅介護（ホームヘルプ）」が第 1 位となっている。

図表 F3-2-1 現在利用している障がい福祉サービス（全体／複数回答）



図表 F3-2-2 現在利用している障がい福祉サービス
(全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		同行援護 17.7	居宅介護（ホームヘルプ） 14.6	生活介護 6.3
性別	男性	居宅介護（ホームヘルプ）／同行援護 20.9		生活介護 7.0
	女性	同行援護 15.1	居宅介護（ホームヘルプ） 9.4	生活介護／グループホーム 5.7
年齢	65～74歳	同行援護 17.5	居宅介護（ホームヘルプ） 10.5	生活介護／グループホーム ／自立生活援助 5.3
	75歳以上	居宅介護（ホームヘルプ） 20.5	同行援護 17.9	生活介護 7.7
手帳の種類	身体障がい	同行援護 29.8	居宅介護（ホームヘルプ） 14.9	生活介護／自立訓練（生活訓練） 4.3
	知的障がい	生活介護 30.8	同行援護／グループホーム 15.4	
	精神障がい	居宅介護（ホームヘルプ） 20.0	同行援護／生活介護／就労継続支援／自立生活援助 5.0	

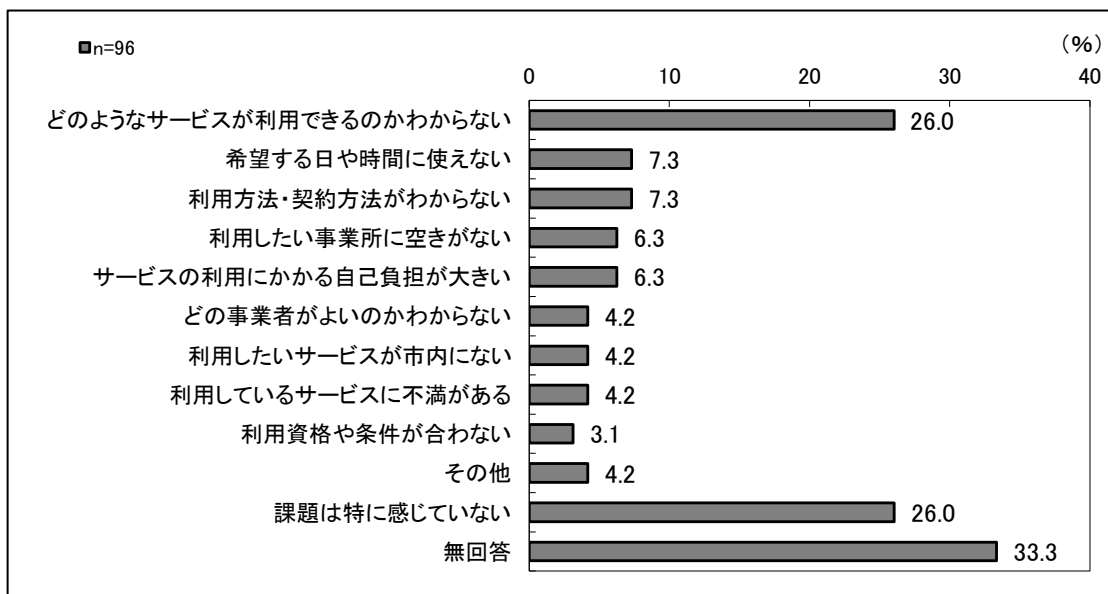
(3) サービス利用に関する課題

問 12 障がい福祉サービスの利用にあたって、感じている課題は何ですか。【複数回答】

- サービス利用に関する課題として「どのようなサービスが利用できるのかわからない」が 26.0%と最も回答が多く、「希望する日や時間に使えない」・「利用方法・契約方法がわからない」が同率で 7.3%と続く。また、「課題は特に感じていない」は 26.0%を占める。

「課題は特に感じていない」以外の回答についていずれの属性でも「どのようなサービスが利用できるのかわからない」が第1位となっている。

図表 F3-3-1 サービス利用に関する課題（全体／複数回答）



I 調査結果 3 福祉サービスなどについて

図表 F3-3-2 サービス利用に関する課題（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		どのようなサービスが利用できるのかわからない 26.0	希望する日や時間に使えない／利用方法・契約方法がわからない 7.3	
性別	男性	どのようなサービスが利用できるのかわからない 20.9	利用方法・契約方法がわからない 9.3	サービスの利用にかかる自己負担が大きい 7.0
	女性	どのようなサービスが利用できるのかわからない 30.2	希望する日や時間に使えない／利用したい事業所に空きがない 9.4	
年齢	65～74歳	どのようなサービスが利用できるのかわからない 28.1	希望する日や時間に使えない 8.8	利用方法・契約方法がわからない 5.3
	75歳以上	どのようなサービスが利用できるのかわからない 23.1	利用したい事業所に空きがない／利用方法・契約方法がわからない／サービスの利用にかかる自己負担が大きい 10.3	
手帳の種類	身体障がい	どのようなサービスが利用できるのかわからない 34.0	希望する日や時間に使えない 10.6	利用したい事業所に空きがない／利用方法・契約方法がわからない／利用しているサービスに不満がある 8.5
	知的障がい	利用資格や条件が合わない／どのようなサービスが利用できるのかわからない 7.7		
	精神障がい	どのようなサービスが利用できるのかわからない 20.0	利用方法・契約方法がわからない 7.5	希望する日や時間に使えない／どの事業者がよいのかわからない／サービスの利用にかかる自己負担が大きい 5.0

(4) 介護保険サービスの利用状況

問 13 介護保険サービスを利用していますか。

- 介護保険サービスの利用状況は、「利用していない」が 55.2%、「利用している」が 28.1%、「わからない」が 4.2%となっている。

手帳の種類で見ると、精神障がいでは「利用している」が 37.5%を占めるのに対し、身体障がいでは 23.4%となっている。

図表 F3-4-1 介護保険サービスの利用状況（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		利用している	利用していない	わからない	無回答	n
	(%)					
	全体	28.1	55.2	4.2	12.5	96
性別	男性	30.2	51.2	4.7	14.0	43
	女性	26.4	58.5	3.8	11.3	53
年齢	65～74歳	26.3	57.9	5.3	10.5	57
	75歳以上	30.8	51.3	2.6	15.4	39
手帳の種類	身体障がい	23.4	61.7	4.3	10.6	47
	知的障がい	30.8	53.8	7.7	7.7	13
	精神障がい	37.5	45.0	2.5	15.0	40

(5) 介護保険サービスの利用における問題

※問 13 で「利用している」と回答した方にお聞きします。
 問 13-1 介護保険サービスの利用に関して問題がありましたか。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。それぞれの項目で「」に○をつけた方は、括弧内に具体的な内容をご記入ください。

① サービスの利用における問題

● サービスの利用における問題は、「特に問題はなかった」が 66.7%、「使いたいサービスや施設が利用できなくなった」が 11.1%、「わからない」が 7.4% となっている。

図表 F3-5-1 サービスの利用における問題（全体・性別・年齢・手帳の種類）

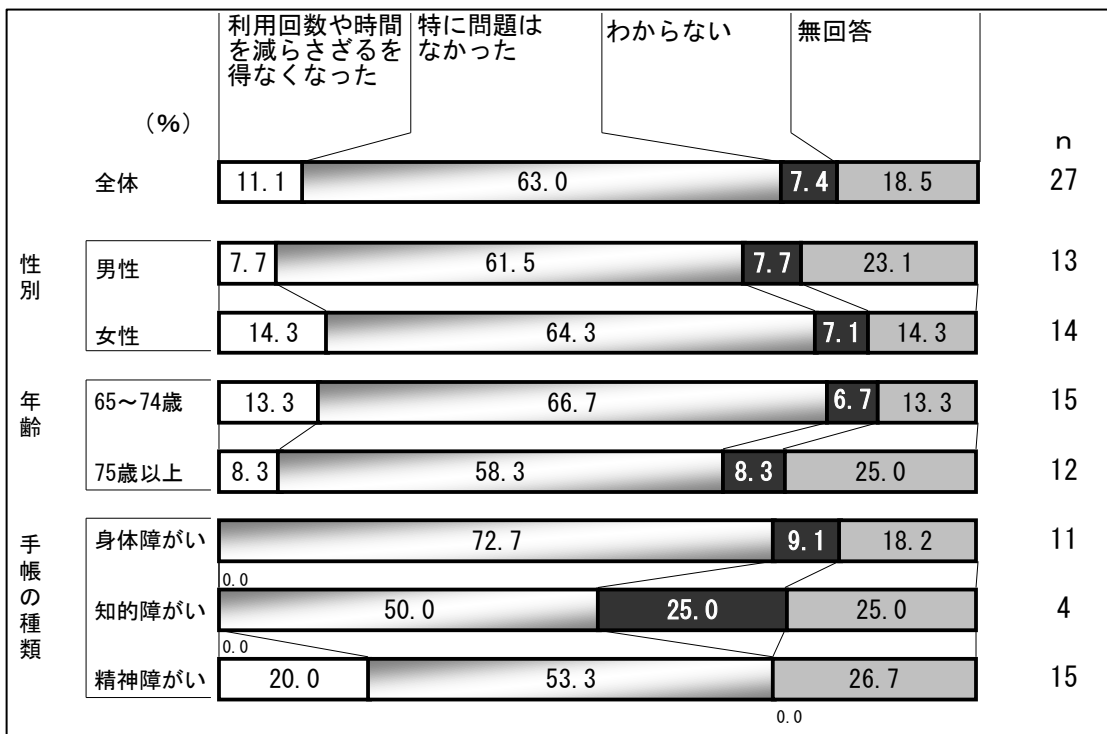
		使いたいサービス や施設が利用で きなくなった	特に問題はな かった	わからない	無回答	n
(%)						
全体		11.1	66.7	7.4	14.8	27
性別	男性	15.4	53.8	15.4	15.4	13
	女性	7.1	78.6		14.3	14
年齢	65～74歳	13.3	60.0	13.3	13.3	15
	75歳以上	8.3	75.0		16.7	12
手帳の種類	身体障がい	18.2	63.6	9.1	9.1	11
	知的障がい		50.0	25.0	25.0	4
	精神障がい	6.7	66.7	6.7	20.0	15

F 高齢障がい者調査

② 利用回数や利用時間における問題

● 利用回数や利用時間における問題は、「特に問題はなかった」が63.0%、「利用回数や時間を減らさざるを得なくなった」が11.1%、「わからない」が7.4%となっている。

図表 F3-5-2 利用回数や利用時間における問題（全体・性別・年齢・手帳の種類）



③ 障がい特性を理解した対応における問題

● 障がい特性を理解した対応における問題は、「特に問題はなかった」が55.6%、「特性を理解した対応が受けられなくなった」が11.1%、「わからない」が18.5%となっている。

図表 F3-5-3 障がい特性を理解した対応における問題（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		（%）				n
		特性を理解した 対応が受けられ なくなった	特に問題は なかった	わからない	無回答	
全体		11.1	55.6	18.5	14.8	27
性別	男性	15.4	46.2	15.4	23.1	13
	女性	7.1	64.3	21.4	7.1	14
年齢	65～74歳	13.3	53.3	20.0	13.3	15
	75歳以上	8.3	58.3	16.7	16.7	12
手帳の種類	身体障がい	18.2	54.5	9.1	18.2	11
	知的障がい	0.0	50.0	25.0	25.0	4
	精神障がい	6.7	60.0	13.3	20.0	15

F 高齢障がい者調査

④ 経済的な負担における問題

● 経済的な負担における問題は、「特に問題はなかった」が 59.3%、「経済的な負担が増えた」が 14.8%、「わからない」が 11.1%となっている。

図表 F3-5-4 経済的な負担における問題（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		経済的な負担が増えた	特に問題はなかった	わからない	無回答	n
性別	全体	14.8	59.3	11.1	14.8	27
	男性	15.4	38.5	23.1	23.1	13
	女性	14.3	78.6	7.1	0.0	14
年齢	65～74歳	20.0	53.3	13.3	13.3	15
	75歳以上	8.3	66.7	8.3	16.7	12
手帳の種類	身体障がい	18.2	54.5	18.2	9.1	11
	知的障がい	0.0	50.0	25.0	25.0	4
	精神障がい	13.3	60.0	6.7	20.0	15

⑤ 家族の負担における問題

● 家族の負担における問題は、「特に問題はなかった」が 51.9%、「家族の負担が増えた」が 11.1%、「わからない」が 14.8%となっている。

図表 F3-5-5 家族の負担における問題（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		(%)	家族の負担が増えた	特に問題はなかった	わからない	無回答	n
性別	全体		11.1	51.9	14.8	22.2	27
	男性		15.4	30.8	23.1	30.8	13
	女性		7.1	71.4	7.1	14.3	14
年齢	65～74歳		13.3	46.7	20.0	20.0	15
	75歳以上		8.3	58.3	8.3	25.0	12
手帳の種類	身体障がい		18.2	54.5	9.1	18.2	11
	知的障がい		0.0	50.0	25.0	25.0	4
	精神障がい		6.7	53.3	6.7	33.3	15

(6) サービス移行における問題

※問 13 で「利用している」と回答した方にお聞きします。
 問 13-2 この他、障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行した際に、何か問題はありませんでしたか。

サービス移行における問題についての回答は次のとおりとなっている。

- ケアマネジャー、利用する事業所に親切に対応してもらってありがたく利用させてもらっています。
- よくわからない事が多くなった。

(7) 介護保険サービスを利用していない理由

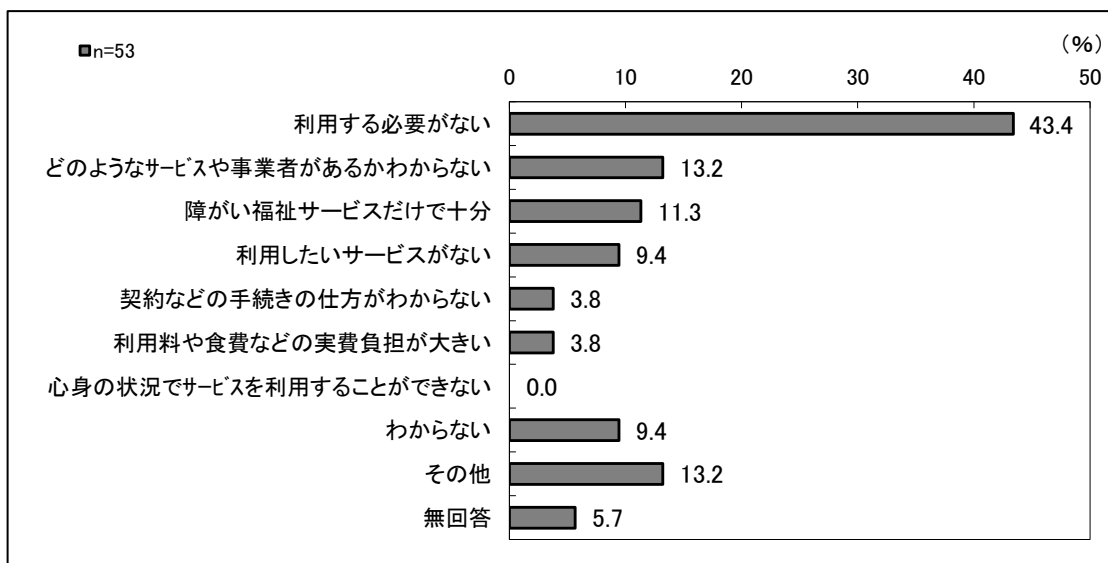
※問 13 で「利用していない」と回答した方にお聞きします。
 問 13-3 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。【複数回答】



● 介護保険サービスを利用していない理由として「利用する必要がない」が 43.3%と最も回答が多く、「どのようなサービスや事業者があるかわからない」が 13.2%と続く。

いずれの属性でも「利用する必要がない」が第1位となっている。

図表 F3-7-1 介護保険サービスを利用していない理由（全体／複数回答）



I 調査結果 3 福祉サービスなどについて

図表 F3-7-2 介護保険サービスを利用していない理由

(全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		利用する必要がある 43.4	どのようなサービスや事業者があるかわからない 13.2	障がい福祉サービスだけで十分 11.3
性別	男性	利用する必要がある 50.0	どのようなサービスや事業者があるかわからない 22.7	契約などの手続きの仕方がわからない／障がい福祉サービスだけで十分 9.1
	女性	利用する必要がある 38.7	利用したいサービスがない／障がい福祉サービスだけで十分	12.9
年齢	65～74歳	利用する必要がある 39.4	どのようなサービスや事業者があるかわからない 18.2	障がい福祉サービスだけで十分 12.1
	75歳以上	利用する必要がある 50.0	利用したいサービスがない 15.0	利用料や食費などの実費負担が大きい／障がい福祉サービスだけで十分 10.0
手帳の種類	身体障がい	利用する必要がある 41.4	どのようなサービスや事業者があるかわからない 17.2	障がい福祉サービスだけで十分 13.8
	知的障がい	利用する必要がある／障がい福祉サービスだけで十分	28.6	利用したいサービスがない／利用料や食費などの実費負担が大きい 14.3
	精神障がい	利用する必要がある 50.0	利用したいサービスがない／どのようなサービスや事業者があるかわからない	11.1

4 社会活動について

(1) 外出の頻度

問 14 外出の頻度はどれくらいですか。通院や買い物、日常の散歩など、すべてを含めてお答えください。

- 外出の頻度は、「週に3～4日」が30.2%、「週に5日以上」が25.0%となっている。

性別で見ると、女性と比べて男性の外出頻度が高くなっている。年齢で見ると、75歳以上と比べて65～74歳で外出頻度が高くなっている。

図表 F4-1-1 外出の頻度（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		週に5 日以上	週に3 ～4日	週に1 ～2日	月に2 ～3日	ほとん ど外出 しない	その他	無回答	n
全体		25.0	30.2	17.7	7.3	7.3	5.2	7.3	96
性別	男性	23.3	39.5	18.6	7.0	7.0			43
	女性	26.4	22.6	17.0	11.3	7.5	2.3	2/3	53
年齢	65～74歳	24.6	35.1	15.8	8.8	5.3	7.0		57
	75歳以上	25.6	23.1	20.5	5.1	10.3	3.5		39
手帳の種類	身体障がい	17.0	42.6	14.9	8.5	6.4	2.6	8.5	47
	知的障がい	23.1	30.8	15.4	15.4	15.4	2.1		13
	精神障がい	30.0	20.0	25.0	7.5	10.0	0.0	0.0	40

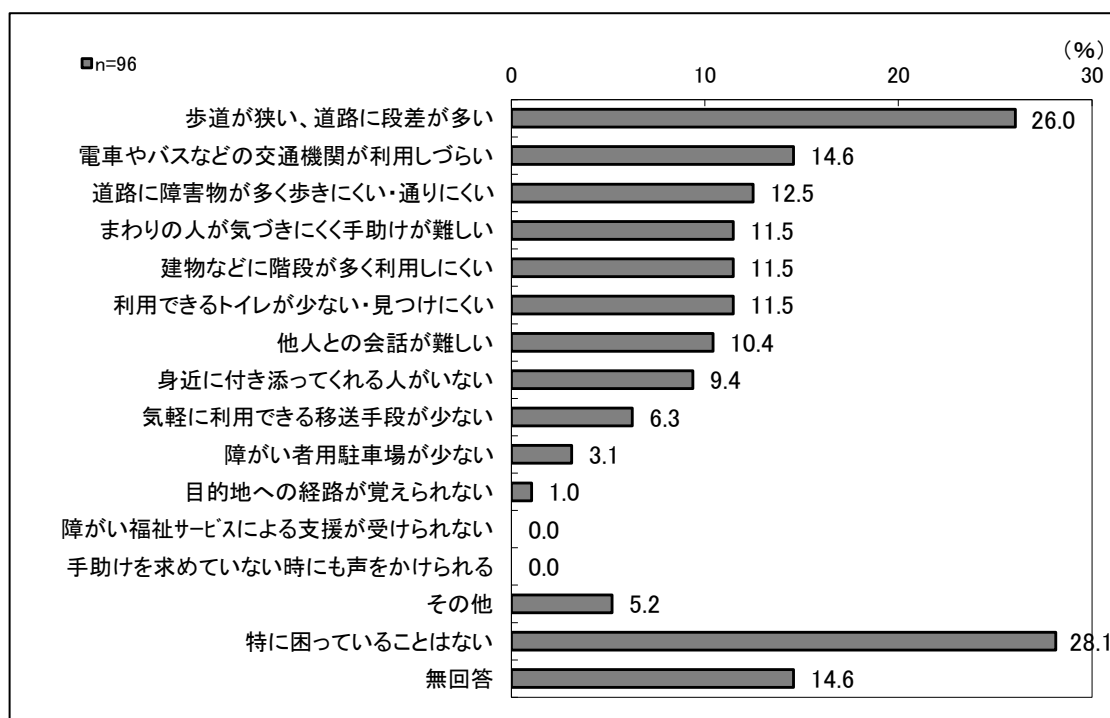
(2) 外出時に困ること

問 15 外出時などに困っていることは何ですか。【複数回答】

- 外出時に困ることとして「歩道が狭い、道路に段差が多い」が 26.0%と最も回答が多く、「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が 14.6%と続く。また、「特に困っていることはない」は 28.1%を占める。

「特に困っていることはない」以外の回答について手帳の種類でみると、知的障がいでは、「建物などに階段が多く利用しにくい」が第1位となっている。

図表 F4-2-1 外出時に困ること（全体／複数回答）



F 高齢障がい者調査

図表 F4-2-2 外出時に困ること（全体・性別・年齢／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		歩道が狭い、道路に段差が多い 26.0	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 14.6	道路に障害物が多く歩きにくい・通りにくい 12.5
性別	男性	歩道が狭い、道路に段差が多い 25.6	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 16.3	道路に障害物が多く歩きにくい・通りにくい／利用できるトイレが少ない・見つけにくい 14.0
	女性	歩道が狭い、道路に段差が多い 26.4	建物などに階段が多く利用しにくい 15.1	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 13.2
年齢	65～74歳	歩道が狭い、道路に段差が多い 26.3	建物などに階段が多く利用しにくい／電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 15.8	
	75歳以上	歩道が狭い、道路に段差が多い 25.6	他人との会話が難しい 17.9	まわりの人が気づきにくく手助けが難しい／電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 12.8
手帳の種類	身体障がい	歩道が狭い、道路に段差が多い 34.0	道路に障害物が多く歩きにくい・通りにくい 21.3	利用できるトイレが少ない・見つけにくい 17.0
	知的障がい	建物などに階段が多く利用しにくい 23.1	身近に付き添ってくれる人がいない 15.4	他人との会話が難しい／歩道が狭い、道路に段差が多い／電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 7.7
	精神障がい	歩道が狭い、道路に段差が多い／電車やバスなどの交通機関が利用しづらい 20.0		身近に付き添ってくれる人がいない／まわりの人が気づきにくく手助けが難しい／利用できるトイレが少ない・見つけにくい 10.0

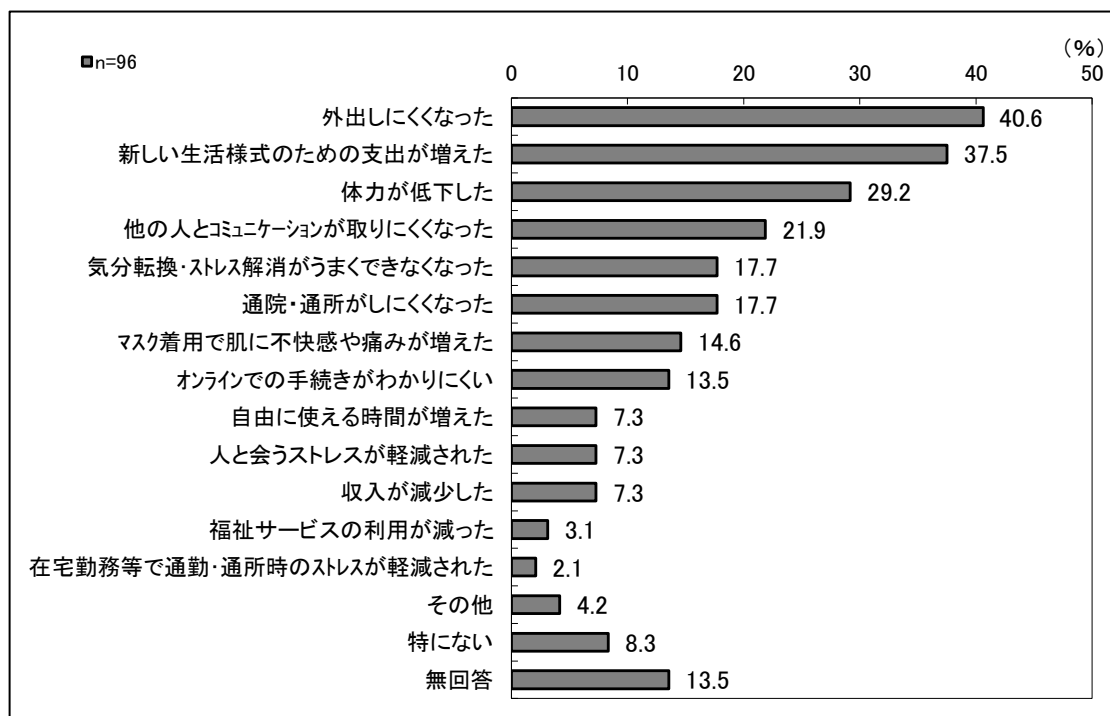
(3) 新型コロナウイルスで生じた生活の変化

問16 新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の拡大に伴い、どのような生活の変化がありましたか。【複数回答】

- 新型コロナウイルスで生じた生活の変化として「外出しにくくなった」が40.6%で最も回答が多く、「新しい生活様式のための支出が増えた」が37.5%と続く。

「特にない」以外の回答について性別でみると、男性では「新しい生活様式のための支出が増えた」が第1位となっている。手帳の種類でみると、身体障がいと精神障がいでは「新しい生活様式のための支出が増えた」が第1位となっている。

図表 F4-3-1 新型コロナウイルスで生じた生活の変化（全体／複数回答）



F 高齢障がい者調査

図表 F4-3-2 新型コロナウイルスで生じた生活の変化
(全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		外出しにくくなった 40.6	新しい生活様式のための支出が増えた 37.5	体力が低下した 29.2
性別	男性	新しい生活様式のための支出が増えた 41.9	外出しにくくなった 37.2	体力が低下した 30.2
	女性	外出しにくくなった 43.4	新しい生活様式のための支出が増えた 34.0	体力が低下した／他の人とコミュニケーションが取りにくくなった 28.3
年齢	65～74歳	新しい生活様式のための支出が増えた 43.9	外出しにくくなった 38.6	体力が低下した 36.8
	75歳以上	外出しにくくなった 43.6	新しい生活様式のための支出が増えた 28.2	体力が低下した／他の人とコミュニケーションが取りにくくなった／オンラインでの手続きがわかりにくい 17.9
手帳の種類	身体障がい	新しい生活様式のための支出が増えた 40.4	外出しにくくなった 38.3	体力が低下した 31.9
	知的障がい	外出しにくくなった 53.8	体力が低下した／他の人とコミュニケーションが取りにくくなった	23.1
	精神障がい	新しい生活様式のための支出が増えた 47.5	外出しにくくなった 32.5	体力が低下した／他の人とコミュニケーションが取りにくくなった 27.5

5 相談について

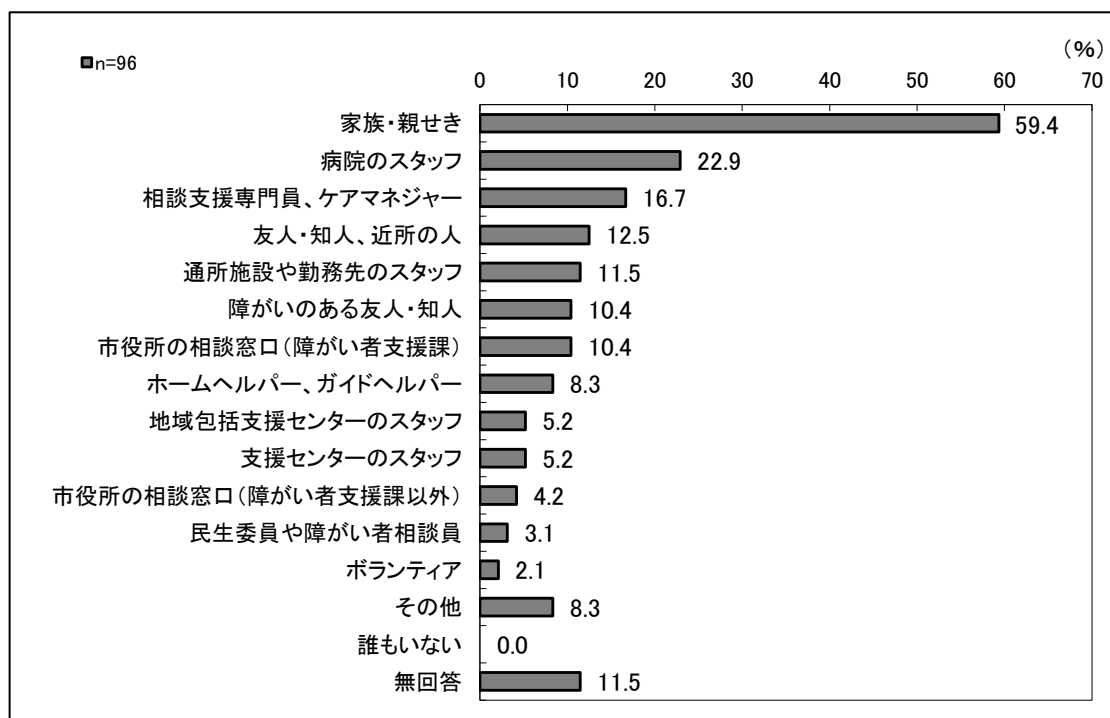
(1) 相談できる人

問 17 日常生活や障がいのことなどで困った時に、相談できる人は誰ですか。
【複数回答】

- 相談できる人として「家族・親せき」が59.4%と最も回答が多く、「相談支援専門員、ケアマネジャー」が22.9%と続く。

「誰もいない」以外の回答について手帳の種類でみると、「通所施設や勤務先のスタッフ」が第1位となっている。

図表 F5-1-1 相談できる人（全体／複数回答）



F 高齢障がい者調査

図表 F5-1-2 相談できる人（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家族・親せき 59.4	病院のスタッフ 22.9	相談支援専門員、ケアマネジャー 16.7
性別	男性	家族・親せき 53.5	病院のスタッフ 25.6	相談支援専門員、ケアマネジャー 23.3
	女性	家族・親せき 64.2	病院のスタッフ 20.8	友人・知人、近所の人 13.2
年齢	65～74歳	家族・親せき 57.9	病院のスタッフ 24.6	相談支援専門員、ケアマネジャー 17.5
	75歳以上	家族・親せき 61.5	病院のスタッフ 20.5	相談支援専門員、ケアマネジャー 15.4
手帳の種類	身体障がい	家族・親せき 70.2	相談支援専門員、ケアマネジャー 19.1	市役所の相談窓口（障がい者支援課） 17.0
	知的障がい	通所施設や勤務先のスタッフ 38.5	家族・親せき 30.8	友人・知人、近所の人 23.1
	精神障がい	家族・親せき 50.0	病院のスタッフ 40.0	相談支援専門員、ケアマネジャー 20.0

6 差別や権利擁護のことについて

(1) 過去1年間に差別や嫌な思いをしたこと

問18 障がいがあることで、この1年（令和3年10月～令和4年9月）の間に、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありましたか。

- 過去1年間に差別や嫌な思いをしたことは、「特になかった」が67.7%となっている。「少しあった」(14.6%)と「よくあった」(7.3%)を合わせた“あった”は21.9%となっている。

図表 F6-1-1 過去1年間に差別や嫌な思いをしたこと（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		（％）				
		よくあった	少しあった	特になかった	無回答	n
性別	全体	7.3	14.6	67.7	10.4	96
	男性	9.3	11.6	69.8	9.3	43
	女性	5.7	17.0	66.0	11.3	53
年齢	65～74歳	7.0	14.0	63.2	15.8	57
	75歳以上	7.7	15.4	74.4	2.6	39
手帳の種類	身体障がい	12.8	14.9	66.0	6.4	47
	知的障がい	0.0	0.0	92.3	7.7	13
	精神障がい	2.5	17.5	65.0	15.0	40

(2) 差別を感じた場面・気遣いや思いやりを感じた場面

問 19 この1年(令和3年10月～令和4年9月)の間に体験した「差別を感じる対応」と、「気遣いや思いやりを感じる対応」についてお聞かせください。

①差別を感じる対応(どのような場面で、誰から)

1 言葉、態度

- 耳に補聴器をかけている事で理解してもらっています。筆談にて会話します。(75～79歳・身体)
- マスクを取ってくれない人がいる。(85歳以上・身体)
- 話し合いしても何1つ解決した試さない。(85歳以上・身体)
- 障害手帳をもっていることでなんで?としつように聞いてくる…。答えたらどんな態度をされるかこわい。(75～79歳・精神)

2 交通機関

- バスなどのる時に、対応などがいやな気がする場合があります(運転者さん)。(65～69歳・精神)

3 福祉施設

- 視覚障害がある事で、さりげなく断られる事が多かったのは施設入所。入所した時に通院する透析病院、通院は家族の付添いやヘルパーを付けるなど言われることが多い。元気な時に、視覚障害がある事で、スポーツクラブ会員だったが、何度も何度も呼ばれて差別的な事を言われたりして、とうとう自分から辞めることにしました。最後に責任者からの一言、「本当に辞めるとは思わなかった」。20年以上も会員だったのに。(70～74歳・身体,難病)

4 その他

- 外出時買物(高い物、安い物)の差別。(65～69歳・精神)
- アンケートや申し込みについて、まず一番に「電話で」となって、電話番号だけ書いてあることが多い。ネットの利用が自信がないのに、これからはこれ(ネット)が主になるようで、非常に心細い。(80～84歳・身体)
- 近くのサークルで生活保護で付きあって貰えなかった。以降は行かない。(80～84歳・精神)
- 問15に記入したように、日常的、店の予約が取れないなど、色々の電話が使えなくて困難した。聴障者用の「電話リレーサービス」を知っているが、面倒くさいですよ(やってない)。いろいろの書類、手続きで代理人(長男)の電話番号になっているので、いろんな人から代理人に連絡が来ます。その連絡で私のものは私に話をして相談すべきことが話さないで独断で決めて連絡をしてしまうが、度々あるので困惑する。(65～69歳・身体)

②気遣いや思いやりを感じる対応（どのような場面で、誰から）

1 言葉、態度

- 公共施設などで障害者手帳を提示したときの対応。(65～69 歳・身体, 精神)
- 酸素ボンベを引いていると、よけてくれる。(65～69 歳・身体)

2 交通機関

- 背骨と肋骨を骨折してから、友人が都合のついた時に買い物してきてくれた。バスに乗る時に順番を譲ってくれた。コミセンのサークルの人が声をかけて、体調を聞いてくれた。(65～69 歳・精神)
- 三鷹駅にバスで行った時、「エスカレーターまで案内願います」と声をかけると、いつもどなたかは案内してくれます。(65～69 歳・身体)
- 三鷹駅、コンビニ等での買いもので援助してくれた。三鷹駅員での対応が良い。(65～69 歳・身体)

3 医療機関

- 面会の場面で医者から。(65～69 歳・精神)
- かかりつけ医が、マスクを下げて喋って下さったとき。まだまだマスクのまま喋る医師が多いので…。パソコンで画面に表示して下さる医師もいらっしまった。しかしパソコンばかり見ている、こちらを見てくださらないのも複雑な心境。(80～84 歳・身体)

4 福祉施設

- リハビリ通所時に話しかけられた。(75～79 歳・身体)
- 知人宅でコミュニケーションで気分転回、訪問看護とのコミュニケーションで気持ハレバレ。(65～69 歳・精神)
- いろんな場面で訪問看護師から。(70～74 歳・精神)

5 その他

- 家族。(75～79 歳・精神)
- かいだん上り下り。(70～74 歳・身体, 精神)
- 市役所では筆談で応じてもらった。(75～79 歳・身体)
- 高齢者にもかかわらず、また障害特性にもかかわらず親切丁寧に対応していただきありがたく思っています。(85 歳以上・身体)
- 食事をする時、食べ物の位置を 12 時のところにおかず、9 時のところにサラダがありますなど。黙って置かれると何もわからず、食べるのは不安だったので。知らない方から、お声をかけていただき、サポートしてもらった時。バスで席をゆずってもらった時。(70～74 歳・身体, 難病)

F 高齢障がい者調査

- ケアマネが困ったことがあれば相談して欲しいと言った。(85 歳以上・身体)
- どこでも気遣いをして下さり、感謝している。(70~74 歳・身体)

(3) 成年後見制度の認知状況

問 20 成年後見制度について知っていますか。

- 成年後見制度の認知状況は、「まったく知らなかった」が 38.5%、「制度の名前も内容も知っていた」が 34.4%となっている。

年齢で見ると、75歳以上よりも65～74歳の「制度の名前も内容も知っていた」の割合が高くなっている。手帳の種類で見ると、身体障がいでは「制度の名前も内容も知っていた」が38.3%と他よりも高くなっている。

図表 F6-3-1 成年後見制度の認知状況（全体・性別・年齢・手帳の種類）

		制度の名前も内容も知っていた	聞いたことはあるが内容は知らなかった	まったく知らなかった	無回答	n
全体		34.4	16.7	38.5	10.4	96
性別	男性	30.2	25.6	32.6	11.6	43
	女性	37.7	9.4	43.4	9.4	53
年齢	65～74歳	38.6	15.8	36.8	8.8	57
	75歳以上	28.2	17.9	41.0	12.8	39
手帳の種類	身体障がい	38.3	19.1	31.9	10.6	47
	知的障がい	23.1	15.4	53.8	7.7	13
	精神障がい	30.0	20.0	42.5	7.5	40

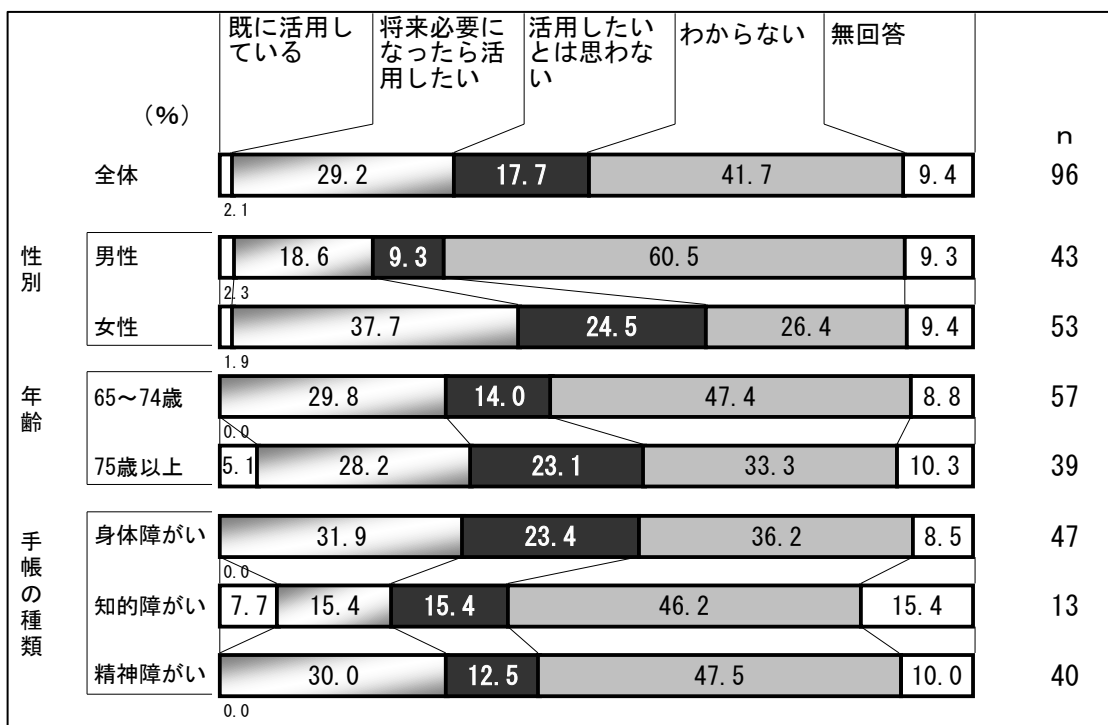
(4) 成年後見制度の利用意向

問 21 成年後見制度を活用したいと思いますか。

- 成年後見制度の利用意向は、「将来必要になったら活用したい」が29.2%、「活用したいとは思わない」が17.7%となっている。また、「わからない」が41.7%となっている。

いずれの属性でも「既に活用している」は1割に満たない。

図表 F6-4-1 成年後見制度の利用意向（全体・性別・年齢・手帳の種類）

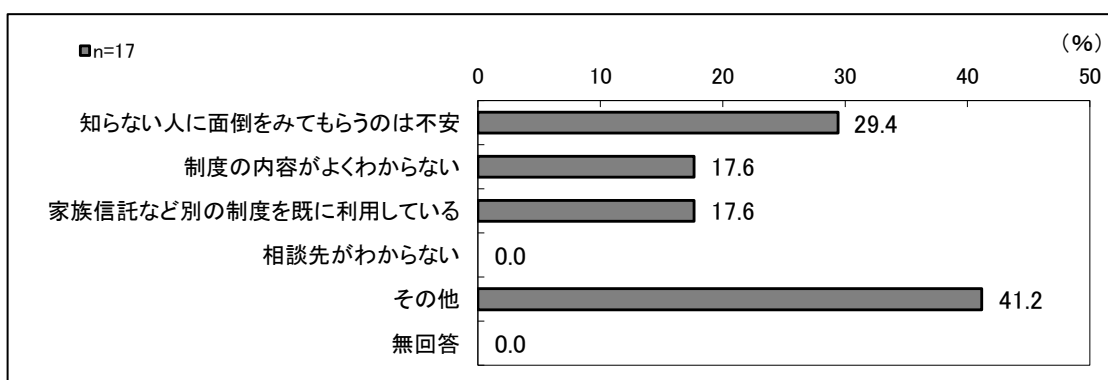


(5) 利用したくない理由

※問 21 で「活用したいとは思わない」と回答した方にお聞きします。
 問 21-1 活用したいと思わない理由は何ですか。【複数回答】

- 利用したくない理由は、「知らない人に面倒をみてもらうのは不安」が 29.4%と最も回答が多く、「制度の内容がよくわからない」・「家族信託など別の制度を既に利用している」が同率で 17.6%と続く。

図表 F6-5-1 利用したくない理由（全体／複数回答）



7 情報の入手やコミュニケーションについて

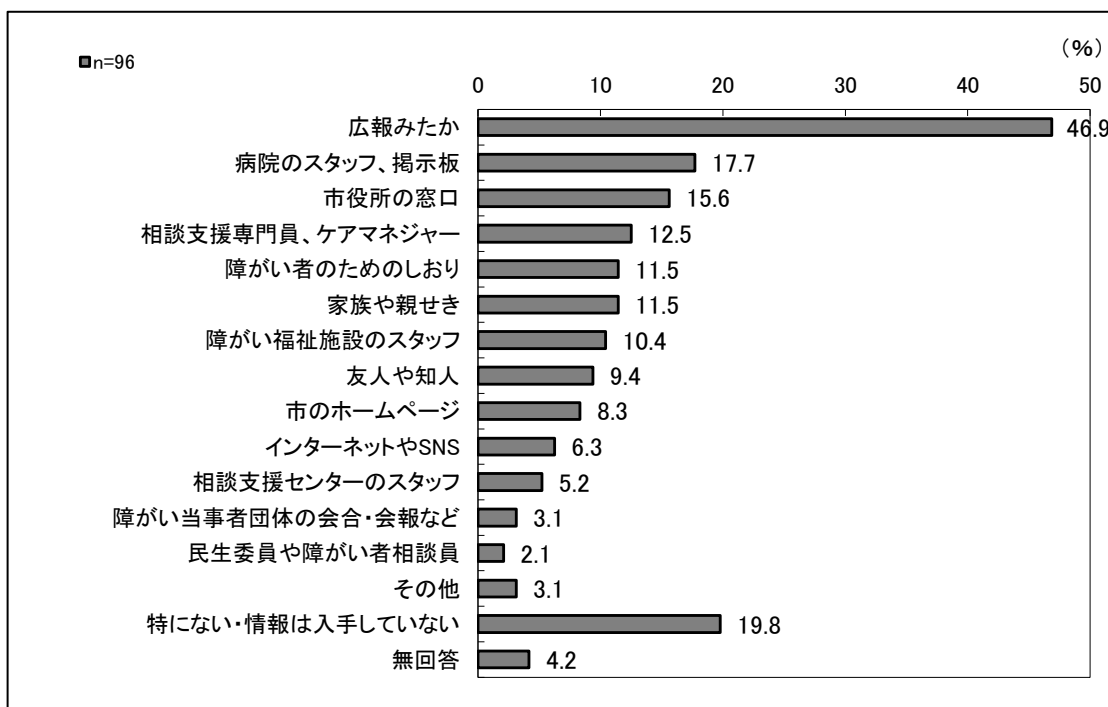
(1) 情報の入手方法

問 22 福祉制度やサービスなどの情報をどこから入手していますか。【複数回答】

- 情報の入手方法として「広報みたか」が46.9%と最も回答が多く、「病院のスタッフ、掲示板」が17.7%と続く。また、「特にない・情報は入手していない」は19.8%を占める。

「特にない・情報は入手していない」以外の回答について手帳の種類でみると、知的障がいでは「障がい福祉施設のスタッフ」が第1位となっている。

図表 F7-1-1 情報の入手方法（全体／複数回答）



I 調査結果 7 情報の入手やコミュニケーションについて

図表 F7-1-2 情報の入手方法（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		広報みたか 46.9	病院のスタッフ、掲示板 17.7	市役所の窓口 15.6
性別	男性	広報みたか 51.2	病院のスタッフ、掲示板 18.6	障がい者のためのしおり 14.0
	女性	広報みたか 43.4	市役所の窓口 20.8	病院のスタッフ、掲示板 17.0
年齢	65～74歳	広報みたか 45.6	市役所の窓口／病院のスタッフ、掲示板 14.0	
	75歳以上	広報みたか 48.7	病院のスタッフ、掲示板 23.1	市役所の窓口 17.9
手帳の種類	身体障がい	広報みたか 59.6	障がい者のためのしおり 21.3	市役所の窓口／市のホームページ／インターネットやSNS／病院のスタッフ、掲示板／家族や親せき／友人や知人 12.8
	知的障がい	障がい福祉施設のスタッフ 30.8	広報みたか 15.4	市役所の窓口／相談支援専門員、ケアマネジャー／相談支援センターのスタッフ／病院のスタッフ、掲示板／家族や親せき／友人や知人 7.7
	精神障がい	広報みたか 40.0	病院のスタッフ、掲示板 27.5	市役所の窓口／相談支援専門員、ケアマネジャー 20.0

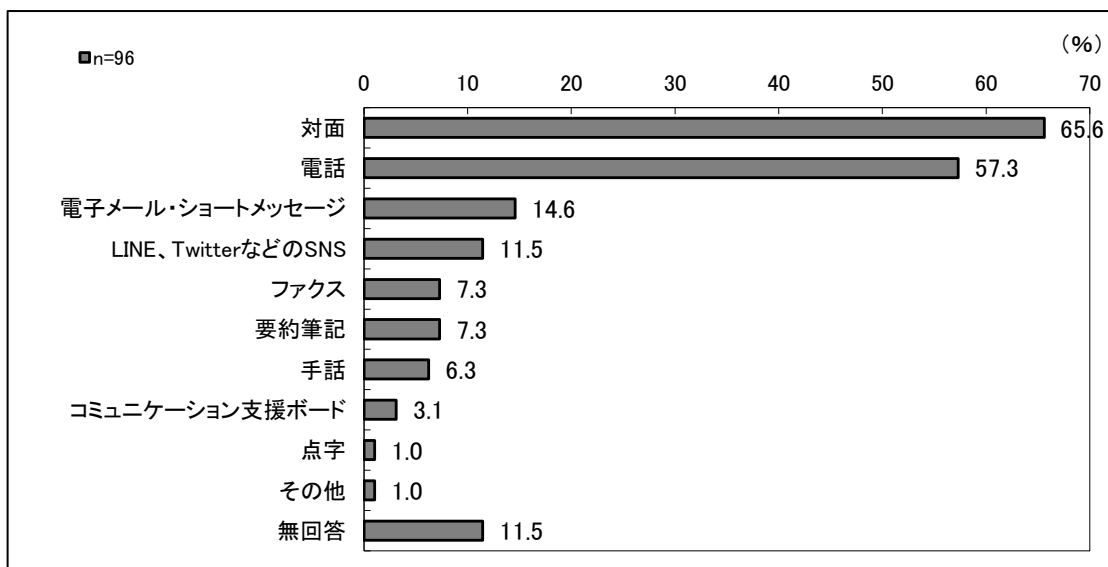
(2) コミュニケーションを取る時に使用しているメディア

問 23 普段の生活でコミュニケーションを取る時に使用している手段は何ですか。【複数回答】

- コミュニケーションを取る時に使用しているメディアとして「対面」が 65.6%と最も回答が多く、「電話」が 57.3%と続く。

性別で見ると、男性では「電話」が第1位となっている。手帳の種類で見ると、精神障がいでは「電話」が第1位となっている。

図表 F7-2-1 コミュニケーションを取る時に使用しているメディア（全体／複数回答）



I 調査結果 7 情報の入手やコミュニケーションについて

図表 F7-2-2 コミュニケーションを取る時に使用しているメディア
(全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		対面 65.6	電話 57.3	電子メール・ショートメッセージ 14.6
性別	男性	電話 58.1	対面 55.8	電子メール・ショートメッセージ 11.6
	女性	対面 73.6	電話 56.6	電子メール・ショートメッセージ 17.0
年齢	65～74歳	対面 70.2	電話 64.9	電子メール・ショートメッセージ 17.5
	75歳以上	対面 59.0	電話 46.2	ファクス 15.4
手帳の種類	身体障がい	対面 61.7	電話 55.3	電子メール・ショートメッセージ 19.1
	知的障がい	対面 76.9	電話 38.5	電子メール・ショートメッセージ／LINE、TwitterなどのSNS 7.7
	精神障がい	電話 70.0	対面 65.0	電子メール・ショートメッセージ 15.0

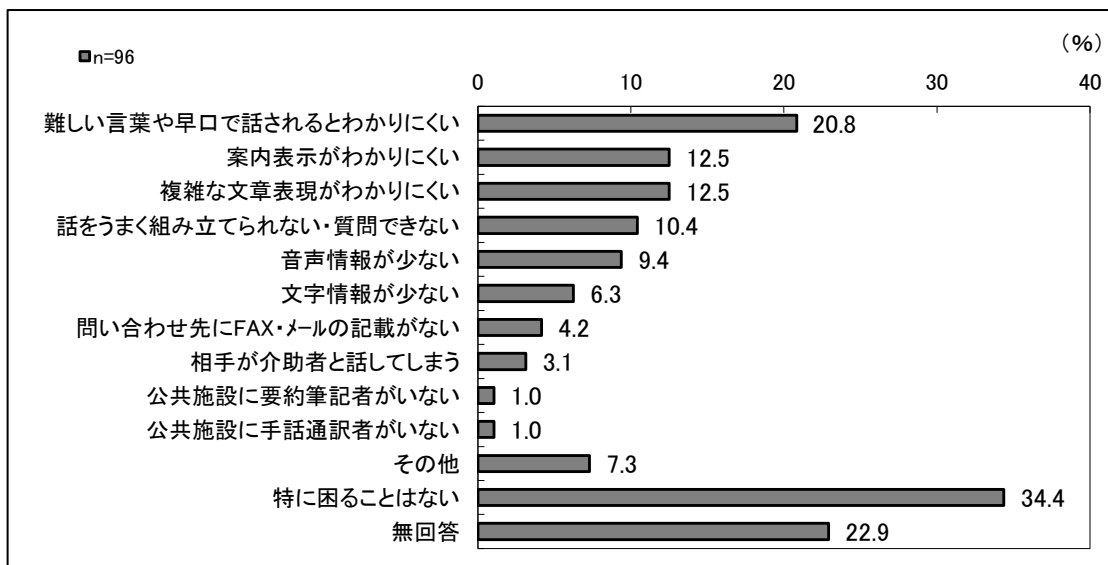
(3) 情報入手・コミュニケーションで困ること

問 24 情報入手やコミュニケーションで困ることはありますか。【複数回答】

- 情報入手・コミュニケーションで困ることとして「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が 20.8%と最も回答が多く、「案内表示がわかりにくい」・「複雑な文章表現がわかりにくい」が同率で 12.5%と続く。また、「特に困ることはない」が 34.4%を占める。

「特に困ることはない」以外の回答について手帳の種類でみると、身体障がいでは、「案内表示がわかりにくい」が第1位となっている。

図表 F7-3-1 情報入手・コミュニケーションで困ること（全体／複数回答）



I 調査結果 7 情報の入手やコミュニケーションについて

図表 F7-3-2 情報入手・コミュニケーションで困ること

(全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 20.8	案内表示がわかりにくい／複雑な文章表現がわかりにくい 12.5	
性別	男性	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 14.0	案内表示がわかりにくい 11.6	音声情報が少ない 9.3
	女性	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 26.4	複雑な文章表現がわかりにくい 20.8	話をうまく組み立てられない・質問できない 15.1
年齢	65～74歳	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 17.5	音声情報が少ない 14.0	案内表示がわかりにくい 12.3
	75歳以上	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 25.6	複雑な文章表現がわかりにくい 15.4	案内表示がわかりにくい 12.8
手帳の種類	身体障がい	案内表示がわかりにくい 23.4	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 19.1	音声情報が少ない 17.0
	知的障がい	話をうまく組み立てられない・質問できない／難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 30.8		複雑な文章表現がわかりにくい 23.1
	精神障がい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 22.5	複雑な文章表現がわかりにくい 15.0	話をうまく組み立てられない・質問できない 12.5

8 災害時の対策、緊急時の対応などについて

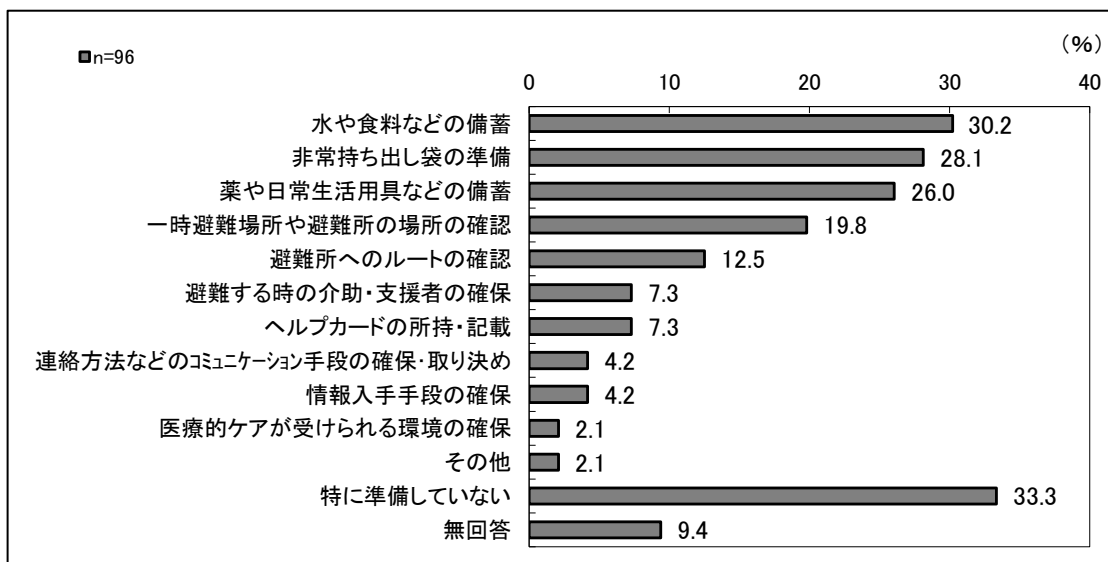
(1) 災害時の備え

問 25 災害に備えて、準備をしていることは何ですか。【複数回答】

- 災害時の備えとして「水や食料などの備蓄」が 30.2%で最も回答が多く、「非常持ち出し袋の準備」が 28.1%と続く。また、「特に準備していない」が 33.3%を占める。

「特に準備していない」以外の回答について性別でみると、男性では「薬や日常生活用具などの備蓄」が第1位となっている。

図表 F8-1-1 災害時の備え（全体／複数回答）



I 調査結果 8 災害時の対策、緊急時の対応などについて

図表 F8-1-2 災害時の備え（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

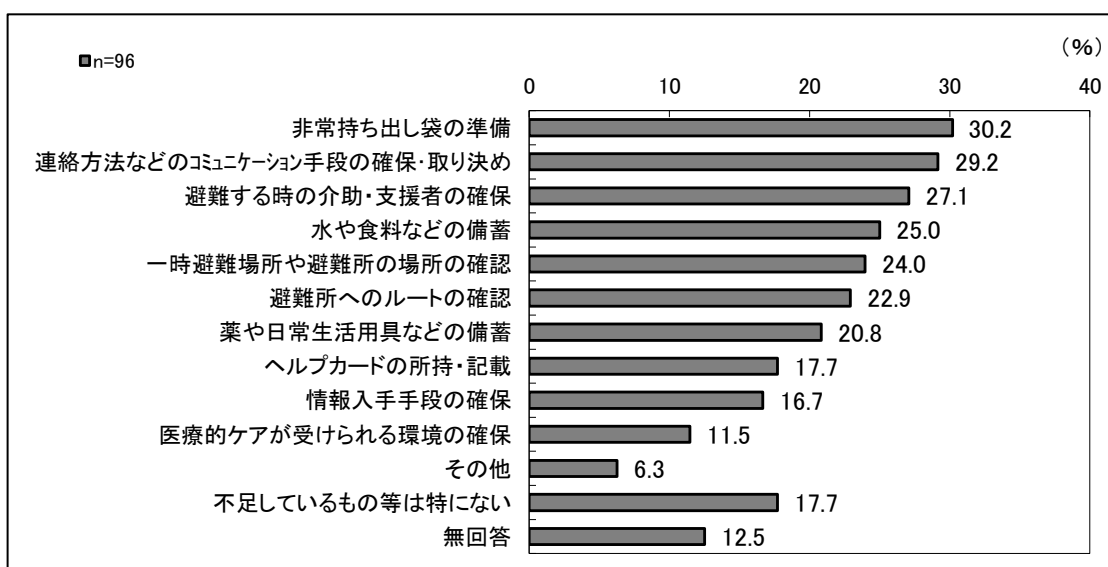
		第1位	第2位	第3位
全体		水や食料などの備蓄 30.2	非常持ち出し袋の準備 28.1	薬や日常生活用具などの備蓄 26.0
性別	男性	薬や日常生活用具などの備蓄 23.3	水や食料などの備蓄 20.9	非常持ち出し袋の準備／一時避難場所や避難所の場所の確認 18.6
	女性	水や食料などの備蓄 37.7	非常持ち出し袋の準備 35.8	薬や日常生活用具などの備蓄 28.3
年齢	65～74歳	水や食料などの備蓄 31.6	非常持ち出し袋の準備 24.6	薬や日常生活用具などの備蓄 22.8
	75歳以上	非常持ち出し袋の準備 33.3	薬や日常生活用具などの備蓄 30.8	水や食料などの備蓄 28.2
手帳の種類	身体障がい	水や食料などの備蓄 38.3	薬や日常生活用具などの備蓄 36.2	非常持ち出し袋の準備 29.8
	知的障がい	非常持ち出し袋の準備／避難する時の介助・支援者の確保／ヘルプカードの所持・記載 23.1		
	精神障がい	非常持ち出し袋の準備／水や食料などの備蓄／一時避難場所や避難所の場所の確認 22.5		

(2) 災害時の備えで不足していること

問 26 災害時の備えとして足りていないこと、できていないことは何ですか。【複数回答】

- 災害時の備えで不足していることとして「非常持ち出し袋の準備」が 30.2%で最も回答が多く、「連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め」が 29.2%と続く。

図表 F8-2-1 災害時の備えで不足していること (全体/複数回答)



I 調査結果 8 災害時の対策、緊急時の対応などについて

図表 F8-2-2 災害時の備えで不足していること（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

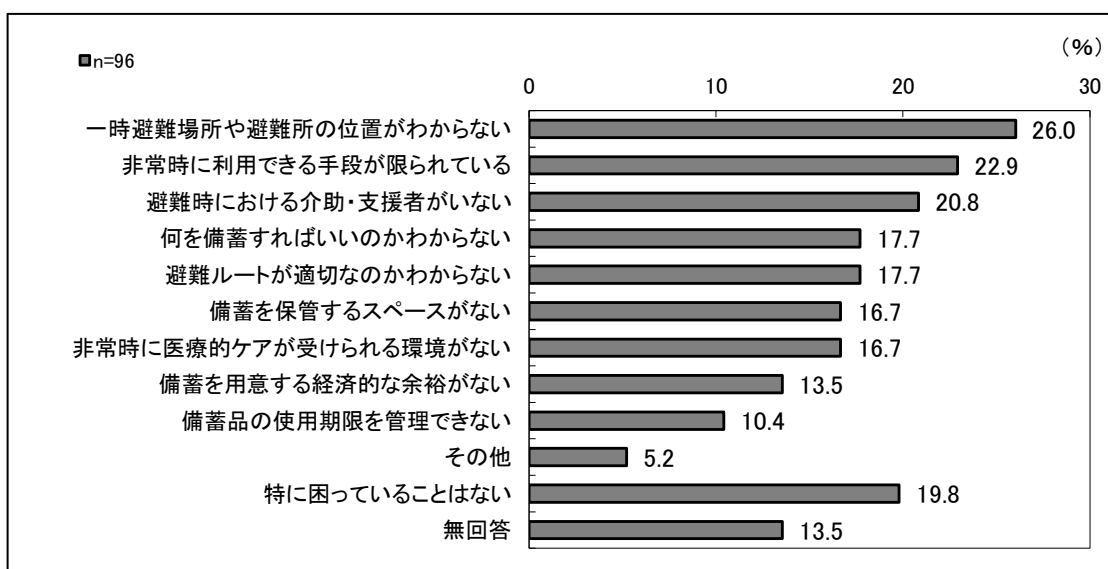
		第1位	第2位	第3位
全体		非常持ち出し袋の準備 30.2	連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 29.2	避難する時の介助・支援者の確保 27.1
性別	男性	連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 30.2	非常持ち出し袋の準備 27.9	水や食料などの備蓄 25.6
	女性	非常持ち出し袋の準備／避難する時の介助・支援者の確保 32.1		連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 28.3
年齢	65～74歳	非常持ち出し袋の準備 35.1	連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 31.6	水や食料などの備蓄 29.8
	75歳以上	一時避難場所や避難所の場所の確認／避難する時の介助・支援者の確保／連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 25.6		
手帳の種類	身体障がい	非常持ち出し袋の準備 31.9	連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 29.8	避難する時の介助・支援者の確保 27.7
	知的障がい	薬や日常生活用具などの備蓄／避難所へのルートの確認 15.4		非常持ち出し袋の準備／水や食料などの備蓄／避難する時の介助・支援者の確保／連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め／ヘルプカードの所持・記載／医療的ケアが受けられる環境の確保 7.7
	精神障がい	連絡方法などのコミュニケーション手段の確保・取り決め 35.0	水や食料などの備蓄 32.5	非常持ち出し袋の準備／一時避難場所や避難所の場所の確認／避難する時の介助・支援者の確保 30.0

(3) 災害時の備えで困ること

問 27 災害時の準備をする上で、困っていることは何ですか。【複数回答】

- 災害時の備えで困ることとして「一時避難場所や避難所の位置がわからない」が26.0%で最も回答が多く、「非常時に利用できる手段が限られている」が22.9%と続く。

図表 F8-3-1 災害時の備えで困ること（全体／複数回答）



I 調査結果 8 災害時の対策、緊急時の対応などについて

図表 F8-3-2 災害時の備えで困ること（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		一時避難場所や避難所の位置がわからない 26.0	非常時に利用できる手段が限られている 22.9	避難時における介助・支援者がいない 20.8
性別	男性	一時避難場所や避難所の位置がわからない 25.6	何を備蓄すればいいのかわからない／非常時に利用できる手段が限られている 18.6	
	女性	一時避難場所や避難所の位置がわからない／避難時における介助・支援者がいない／非常時に利用できる手段が限られている 26.4		
年齢	65～74歳	一時避難場所や避難所の位置がわからない／非常時に利用できる手段が限られている 24.6	避難ルートが適切なのかわからない 21.1	
	75歳以上	一時避難場所や避難所の位置がわからない 28.2	避難時における介助・支援者がいない 23.1	何を備蓄すればいいのかわからない／非常時に利用できる手段が限られている／非常時に医療的ケアが受けられる環境がない 20.5
手帳の種類	身体障がい	一時避難場所や避難所の位置がわからない 27.7	避難時における介助・支援者がいない 23.4	備蓄を保管するスペースがない 21.3
	知的障がい	備蓄を保管するスペースがない／非常時に利用できる手段が限られている aa 15.4		
	精神障がい	一時避難場所や避難所の位置がわからない 32.5	非常時に利用できる手段が限られている 27.5	何を備蓄すればいいのかわからない／避難時における介助・支援者がいない 25.0

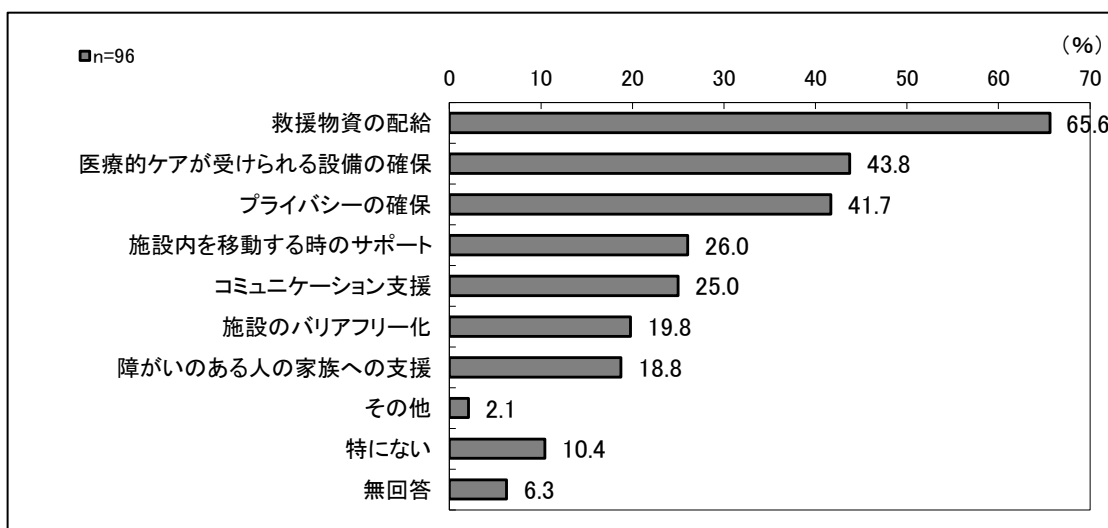
(4) 避難所生活で必要な支援

問 28 避難所での生活に必要な支援は何ですか。【複数回答】

- 避難所生活で必要な支援として「救援物資の配給」が 65.6%で最も回答が多く、「医療的ケアが受けられる設備の確保」が 43.8%と続く。

「特にない」以外の回答について手帳の種類で見ると、知的障がいでは「プライバシーの確保」が第1位となっている。

図表 F8-4-1 避難所生活で必要な支援（全体／複数回答）



I 調査結果 8 災害時の対策、緊急時の対応などについて

図表 F8-4-2 避難所生活に必要な支援（全体・性別・年齢・手帳の種類／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		救援物資の配給 65.6	医療的ケアが受けられる設備の確保 43.8	プライバシーの確保 41.7
性別	男性	救援物資の配給 58.1	医療的ケアが受けられる設備の確保 41.9	プライバシーの確保 32.6
	女性	救援物資の配給 71.7	プライバシーの確保 49.1	医療的ケアが受けられる設備の確保 45.3
年齢	65～74歳	救援物資の配給 66.7	プライバシーの確保 43.9	医療的ケアが受けられる設備の確保 40.4
	75歳以上	救援物資の配給 64.1	医療的ケアが受けられる設備の確保 48.7	プライバシーの確保 38.5
手帳の種類	身体障がい	救援物資の配給 63.8	医療的ケアが受けられる設備の確保 44.7	プライバシーの確保 42.6
	知的障がい	プライバシーの確保 46.2	医療的ケアが受けられる設備の確保 30.8	救援物資の配給 23.1
	精神障がい	救援物資の配給 77.5	医療的ケアが受けられる設備の確保 52.5	プライバシーの確保 40.0

9 自由意見

(1) 自由意見

掲載にあたっては個人を特定できるもの等を除き、出来る限り原文に近い表記で掲載している。

- 税が高い。ゴミ袋が高い。(70～74 歳・精神)
- 近所付き合っていないので、自治会会役員の回覧板はときたま回ってきますが、内容が詳しくないので分かりません。今は自分でやられるものはできています。(75～79 歳・身体)
- 避難所で、酸素ボンベ用電源(100V)を専用(独占)することは不可能と思われ、自宅で発電設備の設置を考えている。(65～69 歳・身体)
- 成年後見制度について 本当に信頼して任せられるか(専門家の場合)。専門家(司法書士、弁護士)に支払う毎月の費用が大変高すぎる(特に障害者に対して、配慮必要と思う)。(75～79 歳・精神)
- いつも、よくお世話になりありがとうございます。(65～69 歳・精神)
- 視覚障害のため、移動支援特にタクシー利用など、利用しやすいと助かります。(70～74 歳・身体)
- 同じ生活するのに誠がない嘘は呆れる。(85 歳以上・身体)
- 50 歳を過ぎた時、突発性難聴で全く聞こえなくなり、1 年後、知人の紹介で都の中途失聴講座を受講し、手話を学び、終了後、同じ講座を受けた人からサークルの入会の案内があり、三鷹市で同じお仲間と楽しく忘れかけた手話を使って、例会を楽しみにしています。(80～84 歳・無回答)
- 個人的には今の支援体制に満足して居ります。(75～79 歳・身体)
- 台所が IH と電子冷蔵庫なので、停電、断水になったらどうしようと不安です。(70～74 歳・精神)
- 三鷹市の福祉行政で親切丁寧にさせていただいて、感謝とありがたい気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。(85 歳以上・身体)
- 外出の為にタクシー券が欲しい。(65～69 歳・精神)
- 親の兄弟が次々に障がいを持つようになり介護してきましたが、援助して下さる方には本人を理解して接して下さいますが、他の方は本人のことは全く分からず、心を通わせることさえ不可能のように見えました。普通の健常者の方々が分かり合っていくことが必要かと思っています。(70～74 歳・精神)
- 役所の仕事を正しくできていない人材がいる！(65～69 歳・身体)
- 同行援護の時間を増やしてほしい(QOL の向上のため)。(65～69 歳・身体)
- アンケートは大変良いと思いますが、年代男女の区別、障害別(本人は視覚障害)に年代、男女等のアンケートをした方が良いのでは。(65～69 歳・身体)

- スマホへの連絡が増えたように思うが、自分のスマホの性能のせいか届かない部分もある。やはり高齢者には、メカは敷居が高いです。せめてFAXだけはいつまでも使って欲しいと願っています。(80~84歳・身体)
- 地域包括支援センターのスタッフの方の入れ替わりが多く、また引き継ぎもないことが多い。あまり頼れないことが多かった。災害の時、困った時、どこにサポートをお願いすればいいのか分からない。視覚障害、透析、車いす生活の家族があり、私も病気の治療中、施設を探しても施設と透析病院に何度断られ続けているか。ケアマネも探していただいているが、同じ結果が多い。今日も探している。介護認定も、一定の基準は分かるが、私達の状況では介護サービスが足りず、負担が多い。(70~74歳・身体, 難病)
- 障がいを持っている人々の高齢化。できない事が増え、多くの助けが必要になる一方、面倒を見て頂ける施設が少ない。(70~74歳・知的)
- 杏林病院へ通院しているが、シティバスがなくなり新しいサービスが始まったが、料金の割引(障がい者割引)がなく割高になってしまうし、いろいろ不便になった。(65~69歳・身体)
- 就労生活支援センターなどを増やして欲しい。(65~69歳・精神)
- 市役所からの手紙等が見にくい事。(65~69歳・身体)
- 今のところ満足しているが、将来は不安である。(70~74歳・身体)
- 災害時の避難経路上の危険、もしくは安全に関する情報が整備されていない。(65~69歳・精神)
- 市からの手当がなく生活が苦しい。(70~74歳・身体)

F 高齢障がい者調査